

＜社会福祉学部社会福祉学科（子ども学専攻）のディプロマポリシー＞

子ども学専攻では、仏教精神に基づく建学の理念である「同朋和敬」の精神のもと、特に乳児、幼児に関連する分野において社会貢献可能な人材の養成を目的としています。そのために、子どもの専門家としての知識、能力、基本的態度を身につけられるような教育を実践します。所定の単位を修得し、かつ以下のような資質を備えた学生に対して卒業を認定し、学士（社会福祉学）の学位を授与します。

1. 知識・理解

- ①子どもの専門家求められる教養が身につけている。人類の文化・社会・自然についての教養的知識や多文化に関する知識を理解している。
- ②子どもの専門家に必要な専門的知識や教育・保育技術が体系的に身につけていて、今日的な課題にも対応可能である。

2. 汎用的技能

- ③子どもの専門家として必要なコミュニケーション能力を備えていて、子どもと子ども、子どもと保育者、子どもと地域、子どもと保護者、さらには保護者と保護者を結びつけることができる。
- ④育ちゆく幼いものへの共感と温かな目を持って子どもと向き合い、一人ひとりを大切にその育ちを支えることができるとともに、問題がある場合には素早く発見し、的確な解決を図ることができる。

3. 態度・志向性

- ⑤子どものための専門職であることに対する責任感と情熱、他者と協働して行動する意識をもち、自らも生涯学び続け、成長し続けようという意欲をもっている。
- ⑥「同朋和敬」の精神と、ともに生きがいのある社会の実現に貢献し続けようとする態度を身につけている。

4. 総合的な学修経験と創造的思考力

- ⑦子どもの専門家としての教養・専門知識・技術・態度等を身につけていて、これらを自ら立てた課題の解決、一人ひとりの子どもの育ちと学びの支援に統合的に活用することができる。